

出題のねらい

一般後期は、現代文2題（文学的文章、論理的文章）、古文の3題のうち、2題を選んで解答します。

㊦は、角田光代の小説『笹の舟で海をわたる』からの出題です。『笹の舟で海をわたる』は、戦後の日本を背景に、坂井左織の半生を描いた作品です。左織は、疎開先が同じだった矢島風美子と偶然再会したことから親しく付き合うようになり、左織が春日温彦に嫁ぐと、あとを追うように風美子は温彦の弟潤司と結婚して義理の姉妹となります。消極的な左織は、積極的に、料理研究家として活躍していく風美子に対して複雑な思いを抱えながら、生涯にわたって交際することになります。問題文は、左織と風美子が再会する場面を抜粋しました。久しぶりの再会を喜んで懐かしがる風美子と、風美子のペースに巻き込まれ、自分の気持ちが言えないでいる左織の対比を読み取ることがポイントです。

㊦は、分子生物学者である福岡伸一氏の『ロハスの思考』からの出題です。科学者の視点でロハス（健康と環境、持続可能な社会生活を心がける生活スタイル）を分析し、身近な事象を挙げつつ「ロハスとは、ある種の思想革命である」と説きます。問題文は、分子の観点から「なぜ食べなければならないか」という疑問の答えを解説した部分です。読解にはある程度科学に関する語彙力も必要ですが、比喩や実験の内容などの具体的な説明の部分と主張や結論の部分とをきちんと分けて考えることができるか、具体的な部分と対応しているのはどの部分であるかを読み取れるかが焦点となります。

㊦は、『住吉物語』の下巻から出題しました。姫君の失踪を悲しむ大納言と、父の大納言が悲しんでいることを知りながら、無事であると伝えることができない姫君の苦悩が描かれている場面です。状況を理解し、大納言と姫君の間にいる大将が、どのように姫君と子どもたちのことを大納言に伝えようとしているかを読み取れるかがポイントです。会話と敬語表現が多いですが、しっかりと文脈をたどり、内容を理解できているかを問うことを問題としました。

㊦

【解答】(50点)

- | | | | | |
|----|--|------|-------|---------|
| 問一 | a 宝飾 | b 乾燥 | c 碁盤 | |
| | d 披露 | e 落胆 | | (各2点×5) |
| 問二 | I ウ | II ア | III エ | |
| | IV イ | V イ | | (各3点×5) |
| 問三 | エ | | | (3点) |
| 問四 | さほど部屋数の多くない同じ旅館に泊まっていたのにまるで思い出せない(こと) | | | (4点) |
| 問五 | まるでそうしてずっと話していれば、左織がすっかり思い出すと信じてでもいるかのよう | | | (4点) |
| 問六 | ア | | | (4点) |
| 問七 | 薄ぼんやりした光 | | | (4点) |
| 問八 | 修善寺に疎開していた時代のことには、さして興味がないと考えている。 | | | (6点) |

【解説】

①知識・技能

②思考力・判断力・表現力

問一 漢字の知識を測る問題です。cを「(碁)板」、dを「被(露)」としないようにしましょう。

問二 語彙力(知識)、および文脈に合致する言葉を選び取る、思考力・判断力を測る問題です。IIは、「見知らぬ女性」に「いきなり」手を握りしめられ、ただ女の手と顔を交互に眺めることしかできない左織の様子から、「意外なことに驚きあきれる」の意味の、ア「呆気にとられて」を選びます。Vは、「いつまでもいつまでも話し続けよう」とあることから、イ「果てしない」を選びます。

問三 文脈に即して本文を適切に読み取れるかどうか、思考力・判断力をみる問題です。風美子が左織との再会に感激した理由は、本文最後の風美子の発言の中で述べられています。左織が「とつてもよくしてくれた」ことに、「本当に助けられた」ことから「いつか会って、お礼を言いたいと思ってた」とあることから、エを選びます。

問四 設問に合致する部分を見分ける、判断力を測る問題です。「左織」が驚いた理由は、傍線部を含む段落の次の段落で述べられています。「矢島風美子という少女を思い出したからではなく、さほど部屋数の多くない同じ旅館に泊まっていたのにまるで思い出せない」ことに対して「左織」は驚いたのです。

問五 物語の展開を順序よく読み解く、思考力・判断力を測る問題です。「夢中で話し出した」風美子に

一般入試／国語(後期)

対し、「まるでそうしてずっと話していれば、左織がすっかり思い出すと信じてでもいるかのよう」だと感じ、「口を閉じてもらうためだけに」、「ごめんなさい、私」「思い出せないことのほうが、多いわ」と発言したと述べられています。よって、この部分を抜き出します。

問六 文脈に即して本文を適切に読み取れるかどうか、思考力・判断力をみる問題です。まず、「左織」が「ごめんなさい、私」と発言したのは、「目の前の女に口を閉じてもらうため」であることが述べられています。また、そのときの気持ちとして、「何か思い出しそうになるが、今、女の果てしないおしゃべりによって思い出すことでもないような気がした」とあります。以上をまとめた内容のAを選びます。Iは、思い出したくないということは誤っていませんが、「思い出さないように記憶の底に沈めた」とは本文で述べられていないため、誤り、Uは「風美子について来てしまった」ことを「懐かしさから」と説明していることが誤りです。

問七 同じ意味の内容を抜き出す、思考力・判断力を測る問題です。「左織」が疎開していたころのことを思い出す様子は、「記憶の底に沈みこんでいた光景が浮き上がってきては点滅した。はっきりと細部を思い出せるものもあったが、ただ薄ぼんやりした光だけのものもあった」と表現されています。つまり、「薄ぼんやりした光」は「思い出せないこと」を表現していることから、この部分を抜き出します。

問八 設問に合致する部分を見分ける判断力、それを的確に要約する表現力を測る問題です。疎開していたころのことを、「忘れなくなるような時代だものね」と言う風美子に対する発言であるので、左織が疎開していたころのことをどのように感じているかが述べられている部分を探します。



【解答】(50点)

問一	a 加速	b 鮮	c 瞬	
	d 筋肉	e 保証		(各2点×5)
問二	I エ	II ア	III イ	(各3点×3)
問三	A エ	B ア		(各3点×2)
問四	流れ			(4点)
問五	生命現象が			(5点)
問六	タンパク質に含まれている窒素が、私たちの身体の中の情報の構築と更新に必要なものであるから。			(6点)
問七	私たちの細			(5点)
問八	イ			(5点)

【解説】

①知識・技能

②思考力・判断力・表現力

問一 漢字の知識を測る問題です。b・cのような訓読みの学習はおろそかになりがちですので、注意しましょう。

問二 語彙力(知識)、および文脈に合致する言葉を選び取る、思考力・判断力をみる問題です。ア「つまり」エ「たとえ」は副詞、イ「しかし」ウ「ゆえに」は接続詞です。Iは空欄後に「～たとしても」とあって仮定条件を表しており、これと呼応する副詞「たとえ」が入ります。IIは空欄前に「カロリー源」、空欄後に「炭素と酸素と水素からなる食料」とあり、空欄後が空欄前の詳しい説明となっています。よって、説明や補足を表す「つまり」が入ります。IIIは空欄前に「～と考えた」、空欄後に「この予想は……裏切られた」とあり、空欄の前後で逆の内容になるので、逆接を表す「しかし」が入ります。

問三 語彙力(知識)、および文脈に合致する言葉を選び取る、思考力・判断力をみる問題です。Aは空欄少し前の「熱量だけ」がヒントになります。熱量だけではなく種類(炭水化物、脂質、タンパク質など)の面からも考えなければならないということが空欄前後に書かれており、「熱量だけ」の考え方は「一面的」ということになります。Bの直前、「そのような」は前の部分「～絶え間なく更新されている」を受けています。またこの文章の後半全体で「流れ」が「生きていることそのもの」であるという主張がなされており、空欄を含む一文全体の要旨は「私たち生命体は常に動いているというようなBの中にある」という意味になります。これにふさわしい語は「ダイナミズム(活力、内なるエネルギー)」です。

Bの選択肢はどれも評論等でよく出てくるカタカナ語です。意味を調べておきましょう。

器や組織の中に」が、それぞれ不適です。

問四 文脈を正確に読み取り、ふさわしい語句を本文から抜き出す、判断力を測る問題です。空欄Xを含む段落に、「生命体が…分解と再構成を繰り返し…食べ続けなければならない」とあります。この事実を発見したルドルフ・シェーンハイマーの標識アミノ酸の追跡の実験について次の段落以降で詳しく説明しており、「標識アミノ酸は……流れの存在とその速さを目に見えるようにしてくれた」と結論づけています。

問五 文脈を正確に読み取り、文章の構成を捉える、思考力を測る問題です。傍線部①の直前の「ここ」は前段落のデカルトの「機械論的な生命観」を指します。したがって、傍線部①は「機械論的な生命観」には捉えられていない特徴と解釈することができます。二段落後に「デカルト的な機械論的生命観が見落としていることがあると言った。それは……」とあることから、「それは」以降を抜き出した箇所が解答となります。

問六 主題を読み取り、文章の構成を捉える、思考力を測る問題です。傍線部②の次の段落で、「タンパク質にあって、炭水化物や脂質には含まれていないものは「窒素」であり、「窒素」は「情報、の構築に使われている」「情報を紡ぎだして自分自身を更新し続けている」とあるので、この部分を解答の根拠とし、指定の文字数でまとめます。

問七 主題を読み取り、文章の構成を捉える、思考力を測る問題です。傍線部の「これ」は「標識アミノ酸はそこにとどまることなく、しばらくすると分解されて体外に排出されていった」ことを指しており、その意味するところは、傍線部の後の文で説明されています。「標識アミノ酸は、ちょうどインクを川に落としたときのように、流れの存在とその速さを目に見えるようにしてくれた」は、体内での「標識アミノ酸」の流れを比喩的に表現したものであるのでふさわしくありません。これを端的に言い換えた次の文が正解になります。

問八 主題を読み取り、文章の構成を捉える、思考力を測る問題です。傍線部④を含む段落の直前の段落に、「一定の情報を保ちつつ、更新していくこと」が「生きていること」であると述べている。これを言い換えたイが正解になります。アは「食べる物質の違い」以下、ウは「分解と拡散」以下、エは「臓

三

【現代語訳】

そうするうちに、中納言は大納言に昇進なさって、大将殿とともに宮中に参上して、雑談なさるついでに、まず涙を流して、「かわいがっていました娘が、世をはかなんで姿を隠しましたのを、せめて生きていだけでも消息を聞きたいと悲しんでおりますが、かいいないまま、憂き世に生き長らえていまして」とおっしゃると、大将は、このついでに姫君のことを話そうとお思いになりながら、思い返して、ともかくもおっしゃらない。

お帰りになって、姫君にかくかくしかじかとお話しになると、姫君も侍従も、「親が子を思うほど、子は親を思わないものだ、いつも仰せになっていたお言葉のとおりだわ。年月を重ねて、今まで、ここにこうしているとも申しあげられぬ悲しさよ。ああ、女の身ほど残念なものはほかにないでしょう」とお恨みになると、大将殿は、「幼い子もお見せしたいと存じますが、思うところがありまして。そうはいっても、申し出る機会も間近です。それまでお待ちください」とおっしゃるので、さすがに「いやです」とも言えなくて、日をお過ごしになるうちに、また愛らしい姫君がお生まれになった。思いどおりであったので、このうえなく大事に大切に育てる。

このようにして年月が過ぎゆくうちに、若君が七歳、姫君が五歳におなりになったので、「八月に、袴着をさせるついでに、大納言殿にお知らせしよう」とおっしゃったので、その日をお待ちになるうちに、大将と大納言がともに宮中に参上なさって、雑談のついでに、「八月十六日に、幼い者の袴着をいたしますが、腰結役をお願いいたします」とおっしゃると、「かしこまりました。しかし、そのようなお祝いの席には、不吉な身でございませう」とおっしゃると、「よく考えたうえで願いますのです。必ずですよ」とおっしゃると、「ともかくも、仰せに従いませう」とお答えして、それぞれお帰りになった。

【解答】(50点)

問一	に カ し オ	(各3点×2)
問二	ア	(4点)
問三	③ア ⑥ウ ⑦イ	(各3点×3)
問四	年月を重ねて、(父の大納言に、)今まで、ここでこうしているとも申し上げない悲しさよ。	(7点)
問五	ウ	(4点)
問六	エ	(3点)
問七	はづき	(2点)
問八	A イ B ウ C ア	(各4点×3)
問九	イ	(3点)

【解説】

①知識・技能

②思考力・判断力・表現力

問一 助動詞の意味を選ぶ、古典の基礎知識を問う問題です。助動詞「に」+助動詞「し」となっている場合は、完了の助動詞「ぬ」の連用形+過去の助動詞「き」の連体形です。助動詞の意味は、古文の読解に必要な知識なので、しっかりと暗記しておきましょう。

問二 現代語訳により、知識や思考力を問う問題です。「だに」は「せめて～だけでも」の意味の副助詞、「ばや」は「～たい」という希望の意味の終助詞です。「あり」には「存在する。生きている。生活する。」などの意味がありますが、かわいがっていた娘が失踪したという文脈から、ア「生きていというだけでも」を選びます。

問三 敬語の敬意の対象を問う、知識と判断力を問う問題です。③「のたまへ」は「言ふ」の尊敬語であり、③の前の発言をしたのが大納言であることから、筆者から大納言に対する敬意を表しています。⑥「たまふ」は尊敬の補助動詞であり、「過ごす」のは姫君であることから、筆者から姫君に対する敬意を表しています。⑦「うけたまはり」は「受く」の謙譲語であり、大納言が「受けた」のは大将の誘いであることから、大納言から大将に対する敬意を表しています。

問四 現代語訳により、知識と表現力を問う問題です。現代語訳をするときは、古文単語の知識、接続助詞の意味、動作をする人やされる人をしっかり押さえた訳をこころがけましょう。「かく」は「このように」の意味で、この場合は、姫君が「ここでこうしていること」です。それを父である大納言に「聞こえはべらぬ(申し上げない)」ことが「悲し」というのです。意味がわかるように、言葉を補って訳すように気をつけましょう。

問五 現代語訳により、知識や思考力を問う問題です。「(大納言殿に)幼い子をお見せしたいのですけれども、思うところがあって」という大将の発言から、傍線部の「申さん」は「大納言に申し出る」という意味であることがわかります。よって「大納言殿に申し出る機会」と訳しているウを選びます。

問六 空欄に入る適当な形容詞を選ぶ、知識と思考力を問う問題です。空欄の前に「悲しさよ」とあり、後に「恨みたまへば」とあることに注目します。「口

惜し」には「残念だ」の意味があるので、これを選びます。このような感情や状況を表す形容詞の意味を覚えておくと、状況や登場人物の心情がつかみやすいです。

問七 古典常識を問う問題です。月の異名や時刻の表し方などは、覚えていなければ答えることができません。しっかり学習しておきましょう。

問八 語句の解釈を選ぶ、知識や思考力、判断力を問う問題です。Aは、「愛らしい姫君がお生まれになった」という文脈から、「かしづき」は「大切に育てる」という意味であるので、イを選びます。Bは、「さりながら」が「しかしながら」の意味であることからウを選びます。Cは、「そのようなお祝いの席には」に続く文脈であることから、「まがまがしき」を「不吉な」と訳しているアを選びます。

問九 文学史の知識を問う問題です。アの『雨月物語』は和漢の典籍を素材とした怪談・奇談。イの『落窪物語』は継母にいじめられ、床の落ちくぼんだ部屋に押し込められていた姫君の物語。ウの『竹取物語』は竹取の翁によって竹の中から見いだされ、育てられたかぐや姫が天皇や五人の貴公子の求婚を退け、月の世界に帰る物語。エの『伊勢物語』は主人公とされる在原業平の元服から死までが書かれている。全体として一貫した筋があるわけではないが、三分の一以上は恋愛を主題としている。オの『栄花物語』は藤原道長の栄華を中心とした宮廷社会を描いた歴史物語。イを選びます。